

シヨ
ック
症状

シヨック症例の原因食物(307/2,954例)は、鶏卵(77例)、乳製品(66例)、小麦(64例)に多かった。シヨック発生率では小麦が18.4%で最も高く、以下ソバ16.9%、木の実類16.4%、甲殻類16.2%、ピーナッツ13.2%で高かった。シヨック症例のアドレナリン使用率は49.8%であり、入院率は46.9%であった。

アドレ
ナリン
使用例

471例(15.9%)が治療に使用された。

転帰

入院は391例(13.2%)であった。

妥当
性の
検証

特定原材料等(義務)7品目で83.2%(2,460例)、(推奨)18品目を加えると93.9%(2,774例)を占める。またシヨック307例のうち義務7品目で82.7%(254例)、推奨18品目を加えると91.2%(280例)が集積する。



考察（調査報告書より抜粋）

- 義務表示7品目および推奨表示18品目で全体の83.2%および93.9%を占めた。またショック症例は同様に82.7%、93.2%を占め、特定原材料25品目の、原因食物に対する十分なカバー率を改めて示した。原因食物上位で、カバーされていない食品は、カシューナッツ(全体に占める割合0.6%)、ゴマ(0.4%)であった。またショック症例においては、カシューナッツ(ショック症例に占める割合1.6%)であった。これらの結果から、今後カシューナッツおよびゴマの特定原材料等格上げを検討する必要性が示される。

	原因食物	n	%		ショック原因食物	n	%
1	◎ 鶏卵	1153	39.0	1	◎ 鶏卵	77	25.1
2	◎ 牛乳	645	21.8	2	◎ 牛乳	66	21.5
3	◎ 小麦	347	11.7	3	◎ 小麦	64	20.8
4	◎ ピーナッツ	151	5.1	4	◎ ピーナッツ	20	6.5
5	○ イクラ	104	3.5	5	◎ エビ	14	4.6
6	◎ エビ	80	2.7	6	○ イクラ	12	3.9
7	◎ ソバ	65	2.2	7	◎ ソバ	11	3.6
8	○ キウイ	41	1.4	8	○ バナナ	5	1.6
9	○ クルミ	40	1.4		カシューナッツ	5	1.6
10	○ 大豆	28	0.9	10	○ クルミ	4	1.3
11	○ バナナ	24	0.8	11	◎ カニ	2	0.7
	○ ヤマイモ	24	0.8		○ 大豆	2	0.7
13	◎ カニ	19	0.6		○ キウイ	2	0.7
14	カシューナッツ	18	0.6		○ リンゴ	2	0.7
15	○ モモ	13	0.4		コメ	2	0.7
16	ゴマ	12	0.4		○ サバ	2	0.7
17	○ サバ	11	0.4		○ イカ	2	0.7
18	○ サケ	10	0.3	18	○ アワビ	1	0.3
	○ イカ	10	0.3		タケノコ	1	0.3
20	○ 鶏肉	7	0.2		カカオ	1	0.3
21	○ リンゴ	6	0.2		タラ	1	0.3
	マグロ	6	0.2		アサリ	1	0.3
23	タラ	5	0.2		フキノトウ	1	0.3
	マンゴ	5	0.2		カツオ	1	0.3
	パイナップル	5	0.2		クラゲ	1	0.3
	タラコ	5	0.2		マカダミアナッツ	1	0.3
27	アボカド	4	0.1		サザエ	1	0.3
	アサリ	4	0.1		ゴマ	1	0.3
	メロン	4	0.1		マグロ	1	0.3
	トマト	4	0.1		カレイ	1	0.3
	その他	104	3.5		カンパチ	1	0.3
					キビ	1	0.3
	合計	2954	100.0		合計	307	100.0

**エリスリトール等の摂取による
即時型食物アレルギー全国調査の概要
(平成24年度 消費者庁調査)**

調査目的

- 近年、エリスリトールや甘味料等によるアナフィラキシーを含む即時型アレルギーの症例が国内外の学会や論文で症例報告されている。そこで我が国のエリスリトールや甘味料等の摂取による即時型アレルギーの健康被害状況を把握し、必要な対策を検討することを目的として研究を実施。

調査方法

- 「即時型食物アレルギーによる健康被害の全国実態調査」の協力医師(1,079名)を対象とし、全国のエリスリトールや甘味料（ソルビトール、マンニトール、キシリトール等）等の摂取による即時型アレルギーの症例の有無及びその症例の詳細を確認することを目的として調査を行った。
(なお、この調査は「即時型食物アレルギーによる健康被害の全国実態調査」とは別の調査である。)
- 調査は1次調査と2次調査に分けて行った。
 - 1次調査ではエリスリトール等の摂取による即時型アレルギーの健康被害症例の有無を調査。
 - 2次調査では1次調査で健康被害症例が「有」と回答し、2次調査へ協力できると回答のあった施設（医師）に症例の詳細を調査。
 - 1次調査、2次調査ともに調査票を用い、調査依頼は郵送で、回収はFAXで実施。1次調査は平成24年10月より、2次調査は平成24年11月より開始。

調査対象

- 1次調査：877名(877名の医師が協力) ※回収率は81.2% (877/1,079名)
- 2次調査：11名(11名の医師が協力★) ※回収率は61.1% (11/18名)
★協力できない理由は、古いデータのためピックアップできないためなど